



## Press Release

2025年1月14日

報道関係者各位

会社名 第一三共株式会社  
代表者 代表取締役社長 奥澤 宏幸  
(コード番号 4568 東証プライム市場)  
問合せ先 コーポレートコミュニケーション部長 朝倉 健太郎  
TEL 03-6225-1126

### DS-3939の抗TA-MUC1抗体の知的財産権買い取りのお知らせ

第一三共株式会社(本社:東京都中央区、以下「当社」)は、Glycotope GmbH(所在地:ドイツ ベルリン、以下「Glycotope社」)が創製したgatipotuzumab(抗TA-MUC1抗体)の知的財産権を同社から買い取りましたので、お知らせいたします。

当社は、gatipotuzumabを当社のADC技術を活用してADC化した薬剤を全世界において独占的に開発および商業化する権利を取得するため、2018年にGlycotope社とのライセンス契約を締結しておりました。今回新たに締結した契約に基づき、当社は、Glycotope社に132.5百万米ドルを契約締結時に支払う一方、当該支払いにより、2018年のライセンス契約に規定された各種マイルストーンおよび販売ロイヤルティの支払い義務を果たしたことになります。

抗TA-MUC1抗体は、当社の6番目のDXd ADCであるDS-3939の抗体部分です。TA-MUC1は、多くの上皮がんにおいて過剰発現していることから、がん治療の有望な標的であると言われていますが、現在、TA-MUC1を標的として承認されているがん治療薬はありません。DS-3939は、固形がん患者(非小細胞肺癌、乳がん、尿路上皮がん、卵巣がん、胆道がん、膵管腺がん等)を対象としたグローバル第1/2相臨床試験を実施中です。

当社は、幅広いがん種における新たな治療の選択肢を提供するため、DS-3939の開発を加速するとともに、当社のADCパイプラインの価値最大化を図ってまいります。

以上

## **DS-3939について**

DS-3939は、当社独自のDXd ADC技術を活用して創製された抗TA-MUC1 ADCです。1つの抗体につき約8個のトポイソメラーゼ I 阻害剤(DXd)が結合しており、5DXd ADCs(エンハーツ®、ダトロウェイ®、HER3-DXd、I-DXd、DS-6000)に続く6番目のDXd ADCとして固形がんを対象としたグローバル第1/2相臨床試験を実施中です。TA-MUC1は、腫瘍特異的に異常な糖鎖修飾を受けた膜貫通型の糖タンパク質で、多くの上皮がんにおいて過剰発現していると言われています。

## **第一三共のADCパイプラインについて**

第一三共のADCパイプラインは、第一三共独自の二つのADC技術プラットフォームから創製された、臨床開発段階にある7つのADCから構成されています。

一つ目のADCプラットフォームは、がん細胞表面に発現する特定の抗原を標的とした抗体と、複数のトポイソメラーゼ I 阻害剤(DXd)をリンカーを介して結合させ、がん細胞の内部へDXdを届けるDXd ADC技術で、現在6つのADCがあります。トラスツズマブ デルクステカン(エンハーツ®、抗HER2 ADC)およびダトポタマブ デルクステカン(ダトロウェイ®、抗TROP2 ADC)は、全世界(当社が独占的権利を有する日本は除く)においてアストラゼネカと共同で開発および商業化を進めています。パトリツマブ デルクステカン(HER3-DXd/U3-1402、抗HER3 ADC)、イフィナタマブ デルクステカン(I-DXd/DS-7300、抗B7-H3 ADC)およびDS-6000(R-DXd、抗CDH6 ADC)は、全世界(当社が独占的権利を有する日本は除く)においてMerck & Co., Inc., Rahway, NJ, USAと共同で開発および商業化を進めています。DS-3939(抗TA-MUC1 ADC)は当社が単独で開発を進めています。

二つ目のADCプラットフォームは、がん細胞表面に発現する特定の抗原を標的とした抗体と、改変されたピロロベンゾジアゼピン(PBD)を結合させ、がん細胞の内部へ改変されたPBDを届けるADC技術です。DS-9606(抗CLDN6 ADC)は、このプラットフォームを活用した最初のADCです。

なお、パトリツマブ デルクステカン、イフィナタマブ デルクステカン、DS-6000、DS-3939およびDS-9606は、現在開発中の薬剤です。安全性および有効性はまだ確立されておらず、各国の規制当局による薬事承認は受けていません。